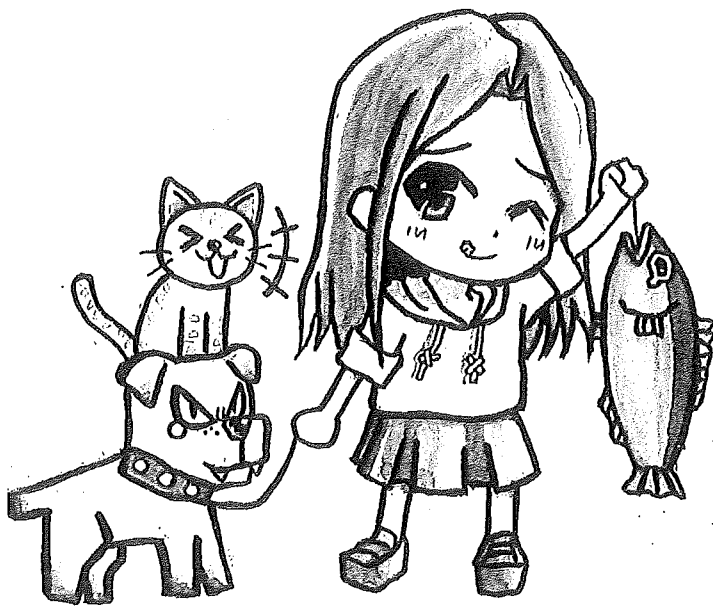


旅立ち

社会福祉法人しらとり会
利用者通信 (NO. 72)
令和3 (2021) 年9月1日発行

今月は、5名の方からの投稿です。



「何てたって ハルキスト!!」 (その2)

それから『ノルウェイの森』が爆発的に売れてしまいました。結果、僕はこの作家(村上春樹)と同時代に生まれた幸福を有難く思っていました。その後『ダンスダンスダンス』を読みました。ここまでは、軽く読めたと思っています。1991年に入り、僕は東広島で入院生活を送る事となりました。そこで、『ねじまき鳥クロニクル』と『国境の南、太陽の西』は途中で、読み切れませんでした。1996年から2000年の間に『レキシントンの幽霊』『スプートニクの恋人』が出版されるのですが、これも途中で読むのを止めました。

(Y.Y.)



黒田美鈴

- できなくていいのなら、なぜ福祉施設があるのか？
- できなくていいのなら、なぜ福祉サービスがあるのか？
- できなくていいのなら、なぜ補うのか？
- できなくていいのなら、なぜ支援するのか？
- できないのが当たり前なら、ほっておけばいい。
- できないのが当たり前なら、税金を使う必要がない。
- 人間できなければ生きれないと言うのが福祉の本音だ。
- 利用者にできない事を許せば、職員もミスを隠蔽できる。
- その証拠に企業でバリバリ働ける福祉職員に、患者人生 40 年お目にかかった事がない。
- 福祉施設や行政に社会指導は到底無理だ。

(加藤忠男)

【投稿の募集】

読んでいただいた方からのご感想をお寄せください。また、利用者の皆様からの投稿をお待ちしています。

次回の締切は、9月15日(水)です。

『旅立ち』編集委員：加藤、本川、A.-Z.、H.A.